

## 受講者募集要項

# 情報社会への対応： 情報技術のセキュリティと歴史

概要：現代の私たちの生活は科学技術の成果の上に成り立っている。なかでも情報技術の進展には目を見張るものがある。これらの技術は利便性が高く、また新たな展開も加速度的に進むのだが、同時にさまざまな問題をはらんでいることは言うまでもない。今回の公開講座では、このような問題をどうとらえるかについて、情報セキュリティの面から、また情報技術の歴史の面から検討したい。

**日程** 平成30年10月6日(土)

13:10～13:20 開講式

13:20～14:50 第1回「新たなインターネット時代における情報セキュリティ」  
村尾 元 (情報コミュニケーションコース 教授)

**講義内容** 今日、我々の様々な情報はインターネット上に保存されており、個人が利用しているスマートフォンやパソコンのセキュリティを確保するだけではそれらの情報を保護できない。一方で、インターネットにおけるセキュリティの確保は、「通信の自由」や「通信の秘密」を脅かしかねない。本講義では、クラウド時代からブロックチェーン時代へと変貌を遂げつつある現代のインターネットにおけるセキュリティの確保とプライバシーの問題について、技術的な側面を交えながら紹介する。

15:10～16:40 第2回「情報技術の歴史と社会：ケンブリッジの数学からアメリカへ」  
塚原 東吾 (比較文明・比較文化論コース 教授)

**講義内容** 本講義では、情報技術の歴史と社会を、広い意味での「セキュリティ」との関係で見てゆく。そのために、ケンブリッジ大学の情報科学について、近年の映画で取り上げられたホーキング(『博士と彼女のセオリー』)、ラマヌジャン(『奇跡がくれた数式』)、チューリング(『イミテーション・ゲーム』)の持つ社会的な意味やセキュリティ上の重要性を考えてみる。アメリカのアポロ計画に貢献した女性数学者を描いた『ドリーム』にも言及したい。

■ 受講対象者：一般社会人、学生(中学生以上)

■ 募集人数：200名(先着順受付)

■ 講習料：無料

■ 申込方法：申込書(裏面)に必要事項を記入して、下記までFAX、郵送またはメール添付にてお申し込み下さい。研究科ホームページ(<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/>)からもダウンロードできます。  
※ご受講いただけない場合のみ連絡しますので、連絡がない場合は、直接会場にお越しください。

■ 会場：国際文化学研究科 B棟110教室(1階)  
阪急六甲駅、JR六甲道駅、阪神御影駅より、神戸市バス16または106系統「六甲ケール下」行きに乗車、「神大国際文化学研究科前」下車